

国土審議会第4回半島振興対策部会議事概要

1. 日時 平成24年6月13日(水) 15:00～16:40
2. 場所 国土交通省国土政策局会議室
3. 出席者 安島部会長、沖委員、原田委員、岡部特別委員、鈴木特別委員、田中特別委員、野口特別委員
和歌山県 岩城企画部地域振興局長
青森県 長津下北地域県民局長
国土交通省 小島国土政策局長、小林審議官、渡辺総務課長、
山本地方振興課長、小山半島振興室長

4. 議事

- (1) 半島振興対策部会における今後の検討の方向性について、半島振興対策地域の現況及び半島振興計画の進捗状況について事務局より説明が行われた。
- (2) 下北半島地域の状況について、青森県より報告された。

主な議論の概要は以下のとおり。

- ・震災等の経験から、半島は、津波による浸水や台風による集落孤立(交通の途絶)など自然災害に弱い地域であることが再認識されている。半島振興の大きな柱に「防災」を位置づけてもらいたい。
- ・大規模地震に備え、高台移転をすすめるべきとの声も大きくなっている。道路のミッシングリンクの解消など、交通のリダンダンシーの確保も大きな課題。
- ・これまでの半島振興計画の目的や手法が適切なのか検証すべき。計画事項が総花的で、地域の実情とあっていないのではないかという印象。施策の集中も考えるべき。
- ・半島地域だけに特化して地域支援を行うことの必要性について検証が必要ではないか。
- ・観光分野では、半島のように交通面の不便さがゆっくりとした旅ができるなど逆に魅力になることも。工業化などがもたらす豊かさと、半島らしい魅力のトレードオフにも注目すべきでは。
- ・どの主体が何を行うのかという半島振興におけるビジョンやストーリーが明確にならないと、新たな半島施策のあり方が見えてこないのではないか。
- ・社会基盤整備については、公的部門が供給するもののみならず、情報通信など民間が担っている分野についても視野に入れるべき。
- ・若い世代の中には、半島の不便さを解消するための支援を求めずに、逆に半島は面白い場所と考える人もいる。そういった方からも話を聞いてみるべき。

(速報のため、事後修正の可能性あります。)

国土審議会第5回半島振興対策部会議事概要

1. 日時 平成24年11月23日(金)15:35～17:30
2. 場所 ホテルシーモア黒潮ホール(和歌山県西牟婁郡白浜町)
3. 出席者 安島部会長、沖委員、岡部特別委員、鈴木特別委員、田中特別委員、仁坂特別委員、野口特別委員
国土交通省 渡延審議官、長崎地方振興課長、金子半島振興室長

4. 議事

紀伊地域の現状と課題について事務局より説明が行われた後、部会開催前に2日間行った同地域の現地視察を踏まえ、半島地域の課題等について議論がなされた。

主な議論の概要は以下のとおり。

- ・ 災害に対して脆弱である半島においては、人が生きていくための基本的な部分である防災面の整備は今後も不可欠。
- ・ 携帯電話やインターネットなどの民間の事業者が整備するインフラにも着目する必要がある。
- ・ 半島地域は、海と山が近接していることで地域資源に恵まれており、他の条件不利地域よりむしろ有利なのではないか。例えば、那智勝浦のマグロは、ブランド価値で交通基盤の不利性を跳ね返そうとする好例。
- ・ 半島の質の高い地域資源の発信等を通じて、地域で小さな取組を行う人々に自信が生まれ、それが地域全体に波及するといった好循環を生み出すことが大切。
- ・ 半島を含む「地域」が目指すべきものは、誇りをもって自分の素の力で生きていけるライフスタイルやそこでしか味わえない食に代表される地域の資源の魅力などを「新しい価値」として創造して提示していくこと。
- ・ 半島内、半島と半島外等での交流を行い、困難性を含めた半島地域の現状を広く知ってもらうようにすることが必要。
- ・ 今や人口減少や高齢化によって地域が縮小することは不可避。それを前提として、小さい地域をどう存続させるのか仕組みを考えることが必要。
- ・ 人材育成は、効果を測定しにくく、その発現に時間がかかる政策を時間をかけて続けていくことが大切なのではないかと。

(速報のため、事後修正の可能性あります。)